永遠への備え　　ヘブル６章９～12 節

よく「どんなに財産があってもあの世まで持ってゆくことは出来ない」と言われますね。クリスチャン的に言うならどんなに財産があっても天国にまで持ってゆくことは出来ないとなるでしょうか。ではこの世と天国とは何もつながりが無いのかというならそんなことはありません。むしろ、今私たちが生きているこの世は、天国、神と共にある永遠のいのちを生きるための備えをする場です。スポーツの野球で言えば、それぞれキャンプも終わり、今開幕前のオープン戦が行われています。その準備をもって開幕からの本番の試合に臨みます。そして先ずはリーグ優勝、その後、日本シリーズを目指してゆきます。この地上の生涯はキャンプあるいはオープン戦の段階にあり、来るべき天国で行われる本番に備えているようなものです。

今年の教会の指針はキリストにあるきずなと一致です。きずなはきずなでも平和のきずなです。良いことのために互いにつながっているのです。そしてその結果、一致が生まれます。これも人間のすることがすっきりしているなという一致ではなく御霊の一致です。時々、ニュースで外国の軍事パレードの様子の画像が写されます。一糸乱れぬ行進や同じ動作をする、そういった一致ではありません。一人一人、性格や捉え方、価値観が異なっている同志がただキリストに目を向け、共に主を賛美し、崇めることが出来る。そのようにさせている聖霊による一致なのです。

そして、今、なぜ教会生活において共にキリストにあるきずなと一致を目指すのかと言うなら、これが神と共にある永遠のいのちを生きる最高の準備となるからです。スポーツの世界なら、私は練習はあまりしなくても試合本番に強いという人もいるでしょう。それでも練習を何もしなくても試合に勝てるということはないと思います。しかし信仰の世界においては今、賛美しない人、祈らない人、奉仕を通して主に仕えようとしない人が突然変わる可能性は少ないと思うのです。パウロは「聖書はすべて、神の霊感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。」テモテ第二 3 章 16 節と言って信仰者としても訓練が必要なことを教えています。またヘブル書には「すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせます。」ヘブル 12 章 11 節と信仰生活における訓練が良い結果をもたらすことを教えています。そういった意味で私達の地上における霊的な訓練と愛のわざを天国への備えとして見ておきたいと思います。

では天国に備えて学んでおくべきことは何でしょうか？　聖書は愛であると言います。愛について学ぶということが最も重要なことです。何故、愛なのでしょうか？　それは先ず第一に愛することが神を知ることになるからです。「愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。」ヨハネ第一 4:8 とあります。神はご自分の似姿に似せて、人間を造られました。ですから当然、神様は私たちがご自分に似た者となることを願っておられます。神の本質が愛なのですから愛を知れば知るほど神様が分かるのです。その反対は愛が無いということです。愛が無いと神がよく分からないのです。「愛」ということばは抽象的であると感じておられる方がおられるでしょう。聖書に「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。」ヨハネ第一 4 章 9 節とありますから大きく言って「愛とは神と人のために犠牲を払うこと」と言えます。ですから愛が無いとは冷たそうな顔をしているとかことばがきついと言ったことよりも神と人のために犠牲を払わないで自己中心、自己本位な生き方をしているということになります。そして人生のあらゆる出来事を通して、神様は私達を愛の人に造り替えようとしているのです。

また学び備えておくことが愛である二番目の理由は愛は永遠の世界において通用するものだからです。「愛は決して絶えることがありません。預言の賜物ならばすたれます。異言ならばやみます。知識ならばすたれます。」コリント第一 13:8　どんな素晴らしい賜物であってもそれはすたれます。止まってしまいます。滅んでしまいます。しかし愛を学ぼうとするなら、それは決して絶えることがない、つまり永遠にあるものを学んでいるということになります。また「神は正しい方であって、あなたがたの行いを忘れず、あなたがたがこれまで聖徒たちに仕え、また今も仕えて神の御名のために示したあの愛をお忘れにならないのです。」ヘブル 6:10　ここにも示された愛を神様は永遠に覚えておられると書かれています。以上のことから私たちが地上の生涯にあって学ぶべき最大のことは愛することなのです。

次に愛は神によってどのように評価され、神から報いを受けることになるのでしょうか？

「そこで、私たちは、あなたがたひとりひとりが、同じ熱心さを示して、最後まで、私たちの希望について十分な確信を持ち続けてくれるように切望します。」ヘブル 6:11

これがリビングバイブル（現代訳）では「そこで私たちは、あなたがたがこの世にあるかぎり、いつも人を愛し続けて、十分な報いを受けることができるようにと、ひたすら願っています」となります。愛することによる報いは大きく、その成果は永遠に残るというのです。神様は私たちが示した愛のわざを高く評価され、評価するだけでなく豊かな報いを用意してくださるのです。

また「切望する」「ひたすら願う」とはそのことを力を込めて勧めているということです。そこには十分な報いがあるのだから集中してそのことにあたってほしいという願いも込められています。イエス様は話をされる時に「耳のある者はよく聞きなさい」とよくおっっしゃいました。せっかくの報いが約束されたキリストのことばもぼんやりしていると機会は通り過ぎてしまうということです。愛のわざに励んでほしいとパウロは心から勧めているのです。言ってくれたら愛したのにとか一言言ってくれたらそうしたのにということはないのです。それこそ今日という日が人生最後の日になるかもしれません。与えられている機会は当たり前のものではなく、かけがえのない機会なのです。

最後にだからこの地上にあっては愛のわざに全力で取り組み続けなさいと勧められています。

「だが、愛する人たち。私たちはこのように言いますが、あなたがたについては、もっと良いことを確信しています。それは救いにつながることです。」ヘブル 6 章 9 節

これは現代訳で「あなたがたが救いにふさわしい良い実を結んでいる。」と訳されています。この手紙の著者は読者が霊的赤ん坊であるのではないことを確信しています。霊的赤ん坊とは愛のわざを受けるばかりの人のことです。彼らは受けるだけでなく積極的に良い実を結んでいるというのです。それは具体的に言うなら「救いにふさわしい良い実」「愛の業」です。彼らがこれまで聖徒たちに仕え、また今も仕えて神の御名のために示している愛のことです。その愛の業をこれからも結び続けなさいと言うのです。

しかしそれは一人で頑張ったからといって結べるものではありません。互いに愛し合うことによって実を結ぶものです。主イエスはおっしゃいました。「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」ヨハネ 13：34－35

クリスチャン同士であっても、愛によって仕え合うということは、やさしいことではありません。自

分と気の合う人とならやさしいことですが、すべての人がそうであるわけではありません。そうでない人に仕えるということは、生まれながらの私たちではなかなかできることではありません。しかし、神は私たちが霊的に大きく成長し、クリスチャンとして成熟するように、必ずそこに困難な問題、特に人間関係を置かれます。ですから私たちは最後まで愛し続けなければならないのです。人は人間関係で心傷つきますが、また人間関係の中で癒されるものなのです。人間関係の中で愛のわざを出しやすいのです。

「私たちは、私たちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛のうちにいる者は神のうちにおり、神もその人のうちにおられます。」ヨハネ第一 4 章 16 節　「うちにおり」とか「うちにおられます。」とは住むということばです。キリストを信じた時に、神が私のうちに住んでいてくださるというのです。それは聖霊という形においてです。何度か話をしていますが私は幼い頃、小学校低学年までは人と話をすることが非常に苦手でした。対人恐怖症と言ったら良いのでしょうね。人の前に出ると顔が赤くなって何もしゃべることが出来ませんでした。だから人と話をしないで済む船乗りになりたかったわけですが。もう少し年齢が進むと話をするのは苦でなくなりましたが素直に人と向き合うことがなかなか出来なくなりました。偏見や先入観、劣等感や優越感で人を見てしまうので結局、人のことをけなしたり、人を裁くようになり、ついには人と向き合うことが嫌になってしまいました。昔はニヒルで暗い感じだったと思います。人にそう見えなくても自分の心の中では分かっていました。しかし、主イエス・キリストを信じて、歩み出し、しばらくしてから気が付いたのですが昔と比べてずいぶん心に受け入れられる人の幅が広がったなと思うのです。もちろん、広がったと言ってもまだまだですが。そしてこのことは自分が人を受け入れるための努力や練習をしたから出来たのではないことがはっきり分かります。それをしてくださったのは私のうちにおられる聖霊の働きによるのです。

　今も私たちが愛のわざに励みたいと願い、聖霊に寄り頼んでゆくなら、神は良い実を次々に実らせてくださいます。そしてその実は今の時はもちろん、天の御国にあっても覚えておかれ、高い評価を神様が与えてくださるのです。日々、永遠に備えてまいりましょう。